

山ごころ

大滝せせらぎ

黒ごころ

はたおと秩父

秩父市

地域おこし協力隊たより

No. 21  
8月号



川瀬まり  
衣装 い3い3 ☺

## 村おこしインターンシップ

インターンシップとは、学生などが一定期間企業などの中で研修生として働き、自分の将来に関連のある就業体験を行える制度のことです。

秩父市地域おこし協力隊では、今年度7月より、「村おこしインターンシップ」を始めました。インターンシップの参加者は私と共に、耕作放棄地の再生や特産品の開発、生活支援など、地域おこし活動を行ってまいります。

この制度を利用して、実際に7月21日から29日の九日間と、7月30日から8月1日の三日間にそれぞれ一名の参加者が大滝を訪れ、地域おこし活動に協力してもらいました。参加した二名の方は「色々なことを学べた」。「参加して本当に良かった」と話してくれました。

学んだ事として挙げてくれたのは、「田舎

の暮らし」と「人と人との繋がり」だそうです。都会で暮らしていると、隣人に挨拶すらもできず不審がられるが、大滝では出会った人に挨拶をするのが当たり前。それが新鮮で、また当たり前前のことかできて嬉しかったそうです。

また「過疎対策として、「体験型観光」を提案してくれました。「大滝の魅力は「人と暮らし」。スポットを訪れ、見学するだけの観光ではなく、現地により深くコミットした観光プログラムを確立したらどうか」。

最後には二人とも、「また大滝に来たい」と言ってくれました。今後とも地域の皆さんのご理解とご協力を頂き、インターンシップに取り組んでいきたいです。よろしくお願ひします。

\*インターンシップについてのお問い合わせ

は欄外メールアドレスにお願ひします。

また下記QRコード先、「秩父市地域おこし協力隊フェイスブックページ」もよろしくお願ひします。



# 秩父市長杯BMX大会

7月12日、秩父滝沢サイクルパークにて、第6回秩父市長杯BMX大会が行われました。秩父市長杯ではランニングバイクの大会も行われるので、3歳から5歳の子供たちも大勢参加しました。子供たちのご両親もいっしょに、声援は鳴り止まず、大会は終始賑やかでした。

## BMXとは？

BMX(バイシクルモトクロス)は一九七〇年代にアメリカで生まれたスポーツで、オートバイに憧れた子供たちが自転車でコースを走ったことがはじまりです。競技は、車輪が20インチの専用自転車で、小高いスタート台からスタートし、大小異なるコブやコーナーを走り抜けて順位を競います。またペダルの無い二輪車(ランニングバイク)は3歳から乗ることができます。



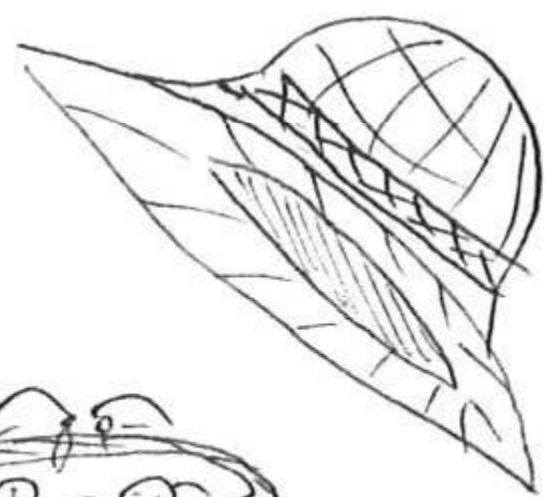
ランニングバイク

# 収穫祭

7月26日、栃本にてジャガイモの収穫祭を行いました。収穫した畑は、この春までススキが生い茂る休耕地でしたが、イベントでの開墾や、地域の方々のご協力により、立派なイモを収穫するに至りました。

今回の収穫祭では17名の方が地域外から訪れてくださり、一緒にイモ掘りやBBQを行いました。ジャガイモの収穫ははじめて、という方も多く、またBBQでは市内肉店の生ラム肉を頂いたのですが、それもとても好評で、大変良いイベントとなりました。

今後もこの様なイベントを通して多くの方に大滝へ訪れてもらい、大滝の魅力を伝えるいきたいです。また開墾を継続し、大滝の美しい逆さ畑を取り戻していきたいと思います。



# 帳開統歳午甲所札父秩 寺智明山星明番九

巡リヨいてその名を聞リば明智寺

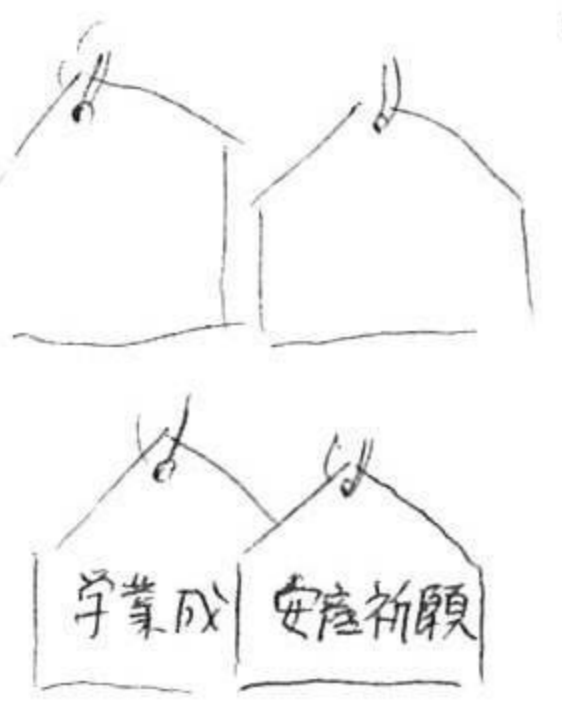
心の月はくもらうぐるらん

明智寺の観音堂は明治14年に一度消失し、その後長らく民家まがいの仮堂でしたが、平成22年になって再建されました。現在は朱色の大角堂が印象的、落ち着いた佇まいの本堂となっています。言い伝えによれば、昔、親孝行な少年がいました。少年は盲目の母の眼を開かせようと、日夜老母の手を引いて観音様にお詣

りしていましたが、ある日のこと、老僧が現れて、この母子の健全な姿を哀れみ、観音経を唱えるよう諭すとそのまま姿を消してしまいました。母子は一心に観音経を唱え続けていると、明け方、明るり星が光りまたたき、二人を照らしました。そのとたん母の眼が一瞬のうちに開いて、光を取り戻したそうです。この霊験から山号が名づけられたそうです。

## 文塚

平安時代に一条天皇の妃が難産で苦しんだ際に、勅命を受けて、長さ九寸一分の香木から如意輪観音を彫って祈願したところ、親王が誕生、母子ともに無事だったといわれています。以後、女人が願いを書いて納めたのが、文塚の始まりといわれています。現在は写経の供養や学業成就、家庭繁栄の御利益があるとして、大勢の人に信仰されています。



# 帳開総歳午甲所札父秩 寺慈大松山万番十

ふたすうに頼みをかきよ大慈寺

六の巻の苦にわはるべし

山門へ続く参道左脇には、赤い頭巾と白い腹掛けをした延命地藏が座してあります。山門はどしりとした作りをしていて、左右には仁王尊がいらっしゃいます。また、観音堂は江戸時代に建立されたものです。

賽銭箱の横にはお賓頭慮さまが笑顔で座してあります。大慈寺のお賓頭慮さまは大変人気があり、信者が自分の病を個所を手でさすり、それでお賓頭慮さまの同じところをなでると、病気がそこへ移るといふ俗信があるため、願掛けをする人が後を絶ちません。

## 全国の

### お賓頭慮さま

(オビンズルサマ)

全国のお寺の外陣や前縁などに、赤いお顔をして座っているのがお賓頭慮さまです。お賓頭慮さまはお釈迦様の弟子の一人で、神通力にすぐれていたそうです。

しかし、みだりに世間の人に神通力を用いたため、お釈迦様の呵責を受けて涅槃を許されず、お釈迦様の滅後にも衆生を救い続けることになっています。



全国には舌を出したお賓頭慮さまもいるようです。



# 帳開総歳午甲所札父秩

## 寺菓常 第十一番

罪とがも 消えよと祈る 坂氷

朝日はささぐで 夕日かがやく

元文年間(一七三六〜一七四〇)に門海上人によって開かれ  
 ましたが、明治十一年(一八七八)の秩父大火で焼けてしまい、  
 現在の本堂は一八九七年に再建されたものです。  
 かつて門海上人が仁王門を建立しようとして勸進  
 を行っていた時、重病になりました。これでは仁王門を  
 建てられないと本尊の十一面観音に祈りつづけていた  
 と二三、ある夜、金剛神を従えた老僧が「仁王門建立  
 のために奴カカを続けろ。汝の行動は素晴らしい。汝の病  
 拵僧が治すべし」と告げました。門海上人が夢から醒  
 めると病は回復し、念願の仁王門も完成したという  
 話があります。そこから、十一番の十一面観音像は、病氣  
 回復、長寿祈願に靈験あらかたとされていきます。

### 古茶干

十一番の坂を下った向かいにあま螺茶店です。  
 ロッジのような雰囲気な素敵なお店、  
 並べられた様々なコーヒーカップを眺めながら  
 おいしいコーヒーとケーキが楽しめます。  
 札所巡りの休憩にいかがでしょうか。

11番行ったら  
ココも行ってみたい!



# 秩父札所甲午歳総開帳

## 第十二番 野坂寺

老の身に苦しきものは野坂寺

いま思いしれ 後の世のみち

かつて甲斐の絹商人がこの地に来た際、山賊に  
おそわれました。山賊は商人の持つ商品だけでなく、  
着ている衣服まで奪い、そして殺そうとします。商人  
は山賊に「命だけは助けて下さい」と嘆願し、懐中に  
あった守り袋の聖観音像に祈りを捧げました。すると  
観音像から一条の強い光が発せられ、山賊たちの目  
を射て、山賊たちは逃げ出しました。しかし、頭は  
その場に残り、「悪いことをして申し訳なかった、これを  
機に心を入れかえて出家し、悪事から足を洗う」と誓  
いました。数年後、商人が再びこの地を訪れるとかつての  
山賊は修行にはげんでおり、その姿に感動して持つて  
全てのお金でお堂を建て、観音像を安置したことが  
野坂寺の由来といわれています。

12番行くなら  
ココを見よう!

### 聖観音像

総開帳の今しか見られませんが、こちらの  
本尊は一、六メートルの不彫木造りで  
もとは吉祥天だったのを観世音に造りか  
えたといわれています。  
見ると確かに他のに比べてふっくらと女性的です。

吉祥天



# 秩父のお祭りとは



## 川瀬まつり

秩父の夏のお祭り、川瀬まつりに宮側町で参加させてもらいました。川瀬まつりは子供のお祭りで、屋台には小学六年生がのり、屋台の前には三と五年生の子供がいて拍子木をたたきながら先導します。

初日は雨が降ったり、二日目は日差しが強かったり、子供たちには大変な天気でしたが立派に最後まで頑張っていました。

私も初めてお祭りに参加したので、こんなに変化とは思いませんでした。伝統あるお祭りは、町会の皆さんが協力し合っていてあんなに大きく立派なものにはなまんですね。いつか拍子木をたたいて歩いた子供たちが大きくなって、行事長としてお祭りを仕切ったりするのかもしれないと思ったりしました。当たり前ですが文化が素晴らしいですね。



ほーりゃい

## 富岡製糸場とー

### 日本絹の里

世界文化遺産に登録決定した富岡製糸場、そして日本絹の里に行ってきました。

富岡市では、市長にもお会いすることができ、今後の製糸場についての話を聞くことができました。大変養蚕蚕に詳しい方で、富岡市の養蚕農家の現状も把握し、日本の絹糸を残そうと考えていて、ぜひ秩父も富岡市と協力して絹織物業を続けていける活動ができればと思います。

富岡製糸場では、明治五年に世界と度り合うために新しい文化を取り入れ国産を豊かに、そして強くしていこうという努力が見えつつ、日本の瓦屋根であったりと流石なポイントは見つけて愛おしくなりました。

絹の里ではお蚕に触れたり、絹の歴史やめあらしのものでは海外輸出時に使用した商標登録シールの展示がありました。シールのデザイン、今見てもとっても素敵です!!

せっかくの夏休み、日本の絹産業を見つめ直す旅はいかがですか? もちろん秩父銘仙も絹なので、ちちぶ銘仙館にも足を運んで下さいね!!



お富ちゃん



### 作成

秩父市地域おこし協力隊  
佐俣 菜津子  
お問い合わせ  
秩父市役所産業観光部商工課  
TEL: 0494-25-5208  
MAIL: syoko@city.chichibu.lg.jp  
☆日々の活動は  
Facebook ページ  
秩父市地域おこし協力隊にて!

### ちちぶ銘仙館

秩父銘仙展示はもろろん、手織・染の体験もできます!  
TEL 0494-21-2112